

たたかう労働組合・回転寿司ユニオンに総結集して、労使関係正常化闘争を完遂しよう！

労使関係の正常化をめざして

30

2026/10/19

編集・発行：回転寿司ユニオン

組合費は「お酒の飲み代」に消える？！ 呆れるゼンセンオルグの実態 都労委書面で店長によるゼンセンオルグの様子が白日の下に

回転寿司ユニオンは、はなまる不当労働行為救済申立（都労委令和8年《不》32号）事件の第1準備書面（10月6日付）において、東京エリアの根室花まる店舗で4月に行なわれた店長によるオルグの録音反訳を提出した。

この録音では、店長によるゼンセンオルグの様子が生々しく録音されているが、中でも組合費について話が及ぶと、この店長は次のように語る。

「じゃあ800円徴収されて、それは何に使うんですかみたいなのは、こういうところを書いてあるんだけど、レクリエーション、例えば私たちが親睦を含めるときに、自分たちがもらったお金が、いずれ自分にもお酒の飲み代とかとして、使える日が来るみたいなの、ちょっとあんまり近い将来ではなさそうだけどもって感じで、もしこのまま不明点なければ署名っていう形で承諾をもらって4月の給料から天引きされるから、5月15日の給料日から天引きっていう仕組みになるんだけど。」

まともな労働組合であれば、組合費の使途で第一に出てくるのは会社との交渉費用や闘争費用である。しかし、このオルグによればまったくそのような観点はなく、ただただ「お酒の飲み代」をはじめとする「レクリエーション」に消費されるようだ。もちろん、労働組合は単に経済闘争をするだけの組織ではなく、団結を深め、疎外労働から人間性を回復するための親睦・交流をするのも大きな目的の一つである。しかし、それはあくまでもたたかいとともに存在するのであって、「飲み会」が頂点に存在するサークルとは違うのだ。

ところで、組合費の使途については、今年3月25日付「めざして」15号でもはま寿司の企業内組合の組合費の値上げの根拠が「①災害時の見舞金対応のための貯蓄、②福利厚生充実（東京ディズニーランド、ユニバーサルスタジオジャパンの2000円割引補助の導入など）、③物価高騰による費用増のため（ユニオンカレンダー作成など）」で同じく交渉・闘争費用という観点が欠如していることを指摘した。どこまでいっても「同じ穴の貉」である。

ゼンセン定期大会で大会代議員から本部・大会運営へ苦言！ 非民主性の片鱗あらわに

UAゼンセンが9月9日から10日にかけて開催した第15回定期大会の討論の時間において、一部代議員から本部へ苦言が呈される事態となった。

苦言を呈したのは、某百貨店グループ労組のM副委員長（代議員）である。M代議員は、ゼンセンが5月の中執で「UAゼンセン行動基準『仲間との約束』」を策定したことに触れ、「なぜ、大会の議案にしないのか」と問うたほか、大会における討論の時間についても「もっと確保すべきだ」と意見を表した。

正社員組合からすら苦言が呈されるような組織が、ましてやパート・アルバイトのなかまの声を真に汲み取って運動を展開するなどあり得ない。ゼンセンの永島会長は大会挨拶で「世界では民主主義の後退が深刻になっている」としたうえで「労働組合運動そのものが民主主義の実践」と熱弁をふるったようだが、実態はこれである。